

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

- 学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く学校
- 確かな信頼関係を基盤に豊かな人間力を育む学校
- 先進的、先導的な教育実践に教育センターと一体となって取り組むナビゲーションスクール

### 2 中期的目標

#### ナビゲーションスクールとしての確立に向けて

#### 1 新たな学びの創造

- (1) 「学びのクローバー」に配された「発見」「探究」「感動」「自信」をキーワードに授業改善に取り組む。
- ア アクティブラーニングを授業に導入し、生徒の能動的な学習を図る。また、PISA型学力の育成をめざした授業づくりを行い、考える力の育成並びに基礎学力の育成を図る。
  - イ 探究ナビを教育活動の柱とし、生徒の力を最大限に引き出す授業づくりに取り組む。
  - ウ 図書室の整備を図る。
- ※自己診断アンケートで「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」（平成27年度 51%）を毎年5%引き上げ、平成30年度には66%にする。



#### 2 教育センターと一体となった授業研究

- (1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校にその成果を発信する。
- ア 生徒の学習意欲の向上を図る教材の開発を行う。
  - イ すべての教科で観点別学習状況評価についての研究・実践を行い、成果を府立学校へ発信していく。
- (2) 次期教育課程の改定を見すえ、教育課程特例校の指定を受けた探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。
- ア 各単元でパフォーマンス課題を設けて、評価を行う。
- ※平成30年度には、すべての教科でシラバスを示し、観点別学習状況評価を行う。

#### 3 生徒の自己実現を叶える学校

- (1) 生徒が見守られ感を感じる学校作りを行う。
- ア 多面的、総合的に生徒をサポートする学校組織体制を確立する。
  - イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
  - ウ 教育支援委員会を中心に、支援の必要な生徒を早期に把握し生徒の指導計画について検討し、本人も保護者も安心して学校生活を送れるようにする。
  - エ ほめる指導を実践する。
- (2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。
- ア 自分の進路に目標をもち、努力する生徒を育てる。
  - イ 自学自習の習慣をつけさせる。
  - ウ 進路希望を実現させる。
- (3) 自己有用感を醸成し、学校への帰属意識を高める。
- ア 生徒会活動の活性化を図る。
  - イ 部活動の活性化を図る。
  - ウ 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。
  - エ 広報活動を充実させる。

※自己診断アンケートで「自分は大切にされていると感じることがある」（平成27年度65%）を毎年5%引き上げ、平成30年度には80%にする。  
近畿大学など関西中堅大学の合格者数を、毎年前年度の2倍にし、平成30年度には60人以上にする。

#### 4 教員力の育成

- (1) 経験年数の少ない教員の育成を図る。
- ア 経験年数の少ない教員を中心とした校内研修組織を確立する。
  - イ 同僚性を育成する。
- ※自己診断アンケートで「教員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある」（平成27年度78%）を毎年4%引き上げ、平成30年度には90%にする。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【生徒向け】</b> 質問項目の 22 項目中、肯定的回答が7割以上のものは、次の 16 項目で、昨年の8項目から大きく増加している。また、肯定的回答が8割以上のものも7項目あり、生徒の学校に対する肯定感が高くなっている。特に、「コミュニケーション能力の育成」に関する質問及び「授業での ICT 機器の活用」に関する項目では、9割の肯定的回答があり、本校のめざす授業のあり方について満足しているととらえることができる。しかしながら、「進んでリーダーを引き受ける」という質問に対する肯定的回答は37%にとどまり、昨年度の34%とほぼ同等で、今後の課題となっている。</p> <p><b>【教職員向け】</b> 「保護者や生徒の願いや期待に応える努力をしている」と肯定的に回答した教員が昨年度86%から91%となり、ニーズを踏まえた学校経営について</p>	<p>第1回学校協議会（平成28年6月22日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○図書室の整備について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室を静かな場所にするのではなく、憩いの場所とすることが重要。</li> <li>・選書をどのような視点から行うのかについて気を配る必要がある。</li> <li>・本の読み方を知らないと社会を出てから本当に困る。</li> </ul> </li> <li>○見守られ感を感じる学校づくりについて                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA 行事への参加者増加により学校への関心が高まっている事に実感がある。</li> </ul> </li> </ul> <p>第2回学校協議会（平成28年11月30日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アクティブ・ラーニングについて                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究ナビの手法が学校全体に広がっていくことが大切。</li> <li>・他人とうまく付き合う方法は社会に出たら大切。</li> </ul> </li> <li>○ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒の育成について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・人に尽くすのではなく仕事に尽くし、寄りかからない人間関係を作る。</li> </ul> </li> </ul>

## 府教育センター附属高等学校

意識が高まっている。また、「学校教育について教職員で日常的に話し合っている」と肯定した教員も昨年度 81%から 91%となり、組織のまとまりも進んでいる。

## 【保護者向け】

学校行事、部活動、PTA 活動が活発だという肯定的な回答がそれぞれ 80% 以上になり、学校と保護者との大きな接点となっている。また、「生徒の安全に努めている」と肯定的な回答をした保護者も 82%であり、本校の防犯教育がさらに信頼されていると感じている。

## ○その他の変化について

アンケート項目(生徒)	H27	H28
入学して良かったと思っている	85%	87%
先生は真剣に自分の事を考えて指導してくれる	65%	78%
自分は大切にされていると感じる	65%	77%

・進学して、やるべきことはやると言えるのは、高校生活が充実しているから。  
第3回学校協議会（平成 29 年 2 月 8 日実施）

## ○評価の数値目標について

- ・評価の数値目標は数字だけ示すのではなく、その根拠を精査する必要がある。
- ・根拠を示さず、「頑張ったけどダメだった」ではやる気を削いでしまう。

## ○生徒の自己実現を叶える学校について

- ・社会に出ても勉強は続けなければならない。その土台は中学・高校で作られる。
- ・生徒が「必要な時に必要とされる人間になりたい」という。大きな成長である。

## ○教育センターと一体となった授業研究について

- ・6年目となった学校の取組みを発表する場を作ってほしい。

## 府教育センター附属高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
新たな学びの創造	<p>(1) 授業改善に取り組む</p> <p>ア アクティブラーニングをすすめ、考える力の育成並びに基礎学力の育成を図る。</p> <p>イ 学習意欲を引き出す授業づくりに取り組む。</p> <p>ウ 図書室の整備を図る。</p>	<p>(1) 「学びのクローバー」に配された「発見」「探究」「感動」「自信」をキーワードに授業改善に取り組む。</p> <p>ア・アクティブラーニングによる授業が誰もが行えるよう、授業研究委員会のメインテーマをアクティブラーニングとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力の定点観測から、課題を見つけ改善を図る。</li> </ul> <p>イ・探究ナビを原則担任と副担任で担当し、探究に関わる人数を増やすことで、その手法や実践を、各教科で活かす。</p> <p>ウ・傷みが激しい本を整理し、レイアウトも再考し「行きたくなる図書室」をコンセプトにPTAと共同で取り組む。</p>	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教科でアクティブラーニングに取り組む。</li> <li>・自己診断アンケートで「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定的回答を56%以上（平成27年度51%）</li> </ul> <p>ウ・図書室の利用者数（授業以外）を150人以上にする。（平成27年度66人）</p>	<p>ア 評価手法に関する調査研究から基礎学力の調査研究に変わり、1学期は国数英と他教科との間に温度差があったが、6月の初任研の研究授業以降は、すべての教科の取り組みに足並みがそろった。11月の授業研究月間では、シラバスへの位置づけを意識しながらパフォーマンス課題に取り組み、アクティブ・ラーニングを深めることができた。自己調整型をめざし、次年度も継続したい。（○）</p> <p>イ 「学習意欲」を高めるために、①成功の期待感を強める。（わかる授業）②興味、好奇心に訴える（タイムリーな教材）③誉める。④協力と競争に訴える。（グループごとの発表会）⑤動機付け（個々の役割分担）などに留意したシラバスを提示し、生徒とともに経験する。テーマ設定、手法や、タイミングなど、各教科に持ち帰り実施している。また、生徒個々の可能性を、違う目で見ることができ、教科での動機付けに役立てることができている。「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定的回答は52.5%（△）</p> <p>ウ 配置や本の整理などPTAや生徒を巻き込み取り組めた。本の整備に関わることで読書に興味を持つ生徒も出てきた。図書室の来室者173名。貸し出し50冊であった（○）</p>
教育センターと一体となった授業研究	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行う</p> <p>ア 学習意欲の向上を図る教材の開発</p> <p>イ 観点別学習状況評価についての研究・実践の実施</p> <p>ウ 府立高校への発信</p> <p>(2) 探究ナビを教科として研究・実践</p> <p>ア パフォーマンス課題と評価</p>	<p>(1) 先進的・先導的な授業実践や授業研究を教育センターと共同で行い、他の府立高校にその成果を発信する。</p> <p>ア・外部機関、外部人材を活用した授業を、引き続き実施していけるよう予算を工夫する。</p> <p>イ・観点別学習状況評価を、シラバスに基づき、1・2年生で実践しながら授業改善を行う。3年生は、次年度シラバスを作成しながら、同時に授業改善を行う。</p> <p>ウ・教育センター指導をうけながら、府立高校初任者向けの研究授業をすべての教科で行う。</p> <p>(2) 次期教育課程の改定を見すえ、教育課程特例校の指定を受けた探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。</p> <p>ア・シラバスに基づいた授業展開により、指導と評価の一体化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとにパフォーマンス課題を府内に発信し、パフォーマンス課題の参考例として活用してできるようにする。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・すべての教科で実施する。</p> <p>イ・生徒向け授業アンケートの「知識や技能が身に付いたと感じる」の学校平均を、3.3以上（平成27年度3.2）</p> <p>ウ・すべての教科で研究授業を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア・他校でも利用できるようなシラバスを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題とループリックの公開。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア 探究、家庭科は、頻繁に外部機関や外部人材活用の授業を実施した。また、国語、社会も例年通りの取り組みであったが、数学など外部人材を活用しにくい教科もあるが、多くの教科で実施できた。（○）</p> <p>イ 観点別学習状況評価の取組は、パフォーマンス課題のシラバスへの位置づけが遅れ気味であったことから、11月の授業研究月間の重点目標として設定した。以後、授業改善と並行しながら、3月末のシラバス完成に向け取り組んでいる。1学期授業アンケートでは、「知識や技能が身に付いたと感じる」の学校平均は、3.13（平成27年度3.16）。（△）</p> <p>ウ 府立高校初任者向けの研究授業をすべての教科で実施した。次年度は、教育センターと連携を深め、Win-Winの関係をめざす。（◎）</p> <p>(2)</p> <p>ア・探究ナビのシラバスは、「担当者からのメッセージ」「到達目標」「評価の観点の趣旨」を示すことで、生徒にもわかりやすい書式に統一して作成している。本校の探究ナビの授業には、他府県を含む多数の学校から見学及び資料の提供を求められ、今年度は12の学校及び教育委員会にシラバスを提供した。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題については、シラバスとともに提供しており、ループリックについても担当教員間の共有までは十分にできている。校外への提供は、見学者から求めに応じて対応している。（○）</li> </ul>

## 府教育センター附属高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生徒の自己実現を叶える学校</p>	<p>(1) 見守られ感を感じる学校作り ア 生徒をサポートする学校組織体制の確立 イ 生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見 ウ 安心して学校生活を送る エ ほめる指導 (2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒の育成 ア 目標をもち、努力する生徒の育成 イ 自学自習の習慣づけ ウ 進路希望の実現 (3) 自己有用感と帰属意識の醸成 ア 生徒会活動の活性化 イ 部活動の活性化 ウ 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 エ 広報活動の充実</p>	<p>(1) 生徒が見守られ感を感じる学校づくりを行う。 ア・教育相談委員会と教育支援委員会、さらに人権教育推進委員会の3輪で、生徒をサポートする体制を確立するために、役割分担を明確にしていく。 イ・学校全体で生徒観察を細やかにし、課題を早期に発見し、共有し、取り組むことのできるように、情報の共有を企画運営委員会、学年会や職員会議で行う。 ウ・生徒の安心を脅かす事象の早期発見を行うために、職員室を生徒の小さな変化を話せる場所にする。 エ・生徒の良い面を見つけ、ほめる指導を引き続きおこなう。 (2) ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。 ア・進路資料の整理を行い、新タイプ自習室のガイダンス機能を、充実させる。 ・各種検定やコンテストへの応募を推奨する。 イ・課題を与えることで自学自習の習慣をつけさせる。 ・勉強合宿等の実施により、学習する集団作りをおこなう。 ウ・大学個別の情報を分析し、生徒の進路希望を実現させる支援をおこなう。 (3) 自己有用感を醸成し、学校への帰属意識を高める。 ア・地域の活動に積極的に関わる。 ・学校行事において、活躍の場を意識的に増やしていく。 ・校内美化活動を行う。 イ・部活動加入率を維持させるとともに生徒の居場所の一つにする。 ・活動状況を共有し、生徒間で刺激しあう ウ・全職員による遅刻指導を続ける。 エ・卒業生を3回出したことを受け、出口についての情報と卒業後の情報の整備を行う。</p>	<p>(1) ア・保護者向け自己診断アンケートの「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている。」の肯定的回答が75%以上(平成27年度72%) イ・生徒向け自己診断アンケートの「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定的回答が70%以上(平成27年度65%) ウ・生徒向け自己診断アンケートの「学校生活の中で自分が認められたり、ほめられたりすることがある。」の肯定的回答が70%以上(平成27年度64%) エ・生徒向け自己診断アンケートの「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。」の肯定的回答が72%以上(平成27年度68%) (2) ア・ガイダンス機能を果たす。 ・利用者数を前年度の1割増(平成27年度1085人) イ・ほとんど学習しない生徒の数を半減させる ウ・近畿大学など関西中堅大学の合格者数を30人以上 (3) ア・生徒向け自己診断アンケートの「自分の学校生活は充実していて、入学して良かったと思っている。」の肯定的回答が85%以上(平成27年度82%) ・校内美化点検25点(30点満点)以下のクラスを5クラス以内に(平成27年度11クラス) イ・部活動加入率70%以上を維持させる。 ウ・学校全体の遅刻数を前年度の1割減 エ・見学者数1000人以上。(H27年度829人)</p>	<p>(1) ア・教育相談委員会(ゆるりすとる一む担当。毎日昼に開室。)、支援委員会は、ほぼ毎週一回、年間20回以上行い、生徒情報を共有することが出来た。また、ゆるりすとる一む登校についての共通理解を明文化した。人権教育推進委員会との共催は各学期1回程度実施し、生徒サポートのための書類作りを行い全体への周知を図った。相談と支援の区別が明確ではないので、今後、相談委員会を身体、精神面からの生徒サポートと位置づけて、保健室とゆるりすとる一むの連携を強化することで、役割分担が明確になると思われる。「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている。」の肯定的回答は71.8%であった(△) イ・「自分は大切にされていると感じることがある」の肯定的回答が65.8%(△) ウ・学校全体での生徒観察については相応の対応がきている。「学校生活の中で自分が認められたり、ほめられたりすることがある。」の肯定的回答は64%(△) エ・ほめる指導を全体として行っている。「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。」の肯定的回答が67.5%(△) (2) ア・自習室の大学説明パンフレット、過去問の利用が増えている。 ・新タイプ自習室の整備は自習室本体と教員への相談・グループ学習の機能を持った別室の2本立てとし、いっそう利用しやすい環境となった。特に相談室は2年生の利用が増え盛況である。自習室本体の利用人数は998人であるが、人数をカウントしていない相談グループ自習室及びHR教室の学習状況を考えると、目的別に狙いがはっきりした利用が行われ、目標が達成されていると思われる。(○) イ・3年生については、学習活動になじんでいない生徒が放課後教室で自習を行う部屋を用意することで、静かに学習することに圧迫感を感じる生徒も学習に向かうようになった。ほとんど学習しない生徒の数は、昨年とほぼ同じ結果であった。(△) ウ・関西中堅大学以上の合格者数が52名であった。昨年同期に比べ増加している。また、センター入試に挑戦する生徒は29名と、昨年から増加した。(◎) (3) ア・校内美化点検に関しては、平成27年度30点満点だったところを、1項目増やして35点満点とした。結果は、昨年度の25点相当以下のクラスが、12クラスと昨年並であった。特徴的なことは、2年生に関しては、昨年度の25点相当以上のクラスが、全くなかったこと。2年生に関しては、採点基準が他の学年よりも厳しかったことが原因である。今後も定期的に清掃点検を実施し、クラスへの呼びかけや、点数の低いクラスへの注意喚起を行っていく。(○) イ 部活動の加入率は最終68.9%であった。生徒による勧誘活動の充実と、入学前からの近隣中学校と連携をとり、本校で部活動をしたいと思わせる活動に取り組みたい。(○)</p>
------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 府教育センター附属高等学校

				<p>ウ 2学期終了時点での遅刻者数は、昨年同時期の4割減であった。(◎)</p> <p>エ 学校説明会・オープンスクールの参加・見学者は昨年度並みの797名であった。入試制度の過渡期の影響からか、第2回の学校説明会・オープンスクールの参加者が大きく減少した。(△)</p> <p>・進路の出口についての情報はホームページ上に掲載している。併せて、在学中の進路決定についての取り組みをホームページ上にアップし、こまめに更新することで保護者や外部の方にも情報提供を開始した。(○)</p>
教員力の育成	<p>(1) 経験年数の少ない教員の育成</p> <p>ア 経験年数の少ない教員を中心とした校内研修組織の充実</p> <p>イ 同僚性の育成</p>	<p>(1) 経験年数の少ない教員の育成を図る。</p> <p>ア・授業構築についての研究活動を授業研究委員会とは異なる組織「パワーアップ28」で行う。</p> <p>・教師力アップのための研修会を実施する。</p> <p>イ・初任者も話ができるような情報交換会を学期に1回は開催する。</p> <p>・引き続き初任期の教員を広報担当とし、責任ある役割をもたせる。</p>	<p>ア・パワーアップ28の実施状況</p> <p>・学期に1回以上の実施</p> <p>イ・聞き取りにより検証する。</p> <p>・学期に1回以上の実施</p> <p>・教職員向け自己診断アンケートで「教員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある」の肯定的回答が82%以上(平成27年度78%)</p>	<p>ア・パワーアップ28については一学期7回、二学期2回、三学期2回行った(授業研究の会議とは別にカウントしている)。(◎)</p> <p>イ・二週間に1回程度の定期的な話し合いを持ち、初任者が直面している問題や、考え感じていることについて話し合いを持った。(◎)</p> <p>・広報担当として責任ある役割を担った。「教員間でお互いの授業を見学する機会があり、授業について意見交換するなど自律的な風土がある」の肯定的回答が90.5%(◎)</p>